

はじめに

平成 29 年度の FD 活動を振り返り、ご報告申し上げます。今年度、本学は生活福祉文化学部と心理学部を改組し、現代人間学部を開設いたしました。現代人間学部は、福祉生活デザイン学科、心理学科、こども教育学科の 3 学科があり、4 月に一期生を迎えました。FD 委員会も学部新設に合わせ、新メンバーとしてこども教育学科から 1 名の教員が加わって、今後は人間文化学部（英語英文学科、人間文化学科）から 2 名、現代人間学部（福祉生活デザイン学科、心理学科、こども教育学科）から 3 名で構成されることになりました。

本学の FD 委員会の規定では、委員会の目的を、「建学の理念及び教育目標に基づき、教員の資質向上と教育研究活動の充実・発展の推進（第 2 条）」とし、その業務は FD 活動に関しての、(1)企画立案、(2)実施計画の策定と評価、(3)報告、(4)情報収集と提供、(5)関係団体との連携等、と定めています（第 3 条）。

FD 委員会は、上記の規定に沿って FD 活動を具現化してゆくこととなりますが、まずは(1)の企画立案に関わる活動として、一年間の活動の概要を年初に決定し、これに沿って(2)～(5)の活動の詳細を、毎月開催される委員会で審議・決定して参りました。今年度については、年初の委員会において“前年度の活動内容や実績を踏まえ、改善すべき点や発展可能性を検討して行く”という方針が決定されました。そこで、この決定に沿って次の事業を企画し、実施いたしました。

1. 学部生による授業評価アンケートを前期と後期に、大学院生による教育評価アンケートを後期に実施しました。また、アンケートの結果を教員に伝え、教員は受講生に向けたフィードバックを行い、この内容を学内で共有しました。なお、この事業は来年度（平成 30 年度）から、従来の紙媒体ではなく Web による実施に移行することから、一部授業では試行的に Web による授業評価が導入されました。
2. 年間 3 回の学内研修会（うち、1 回は全学研修会）を実施しました。複数回の開催により、教職員の学ぶ機会を確保するようにしました。
3. オープンクラスは、原則、全ての学部授業を公開とし、今年度は後期 3 週間をオープンクラスウィークとして、教職員や学生が自由に授業を参観できるようにしました。参観者からのコメントは被参観の教員にフィードバックし、授業改善や学生の学びを理解する一助となるようにしました。
4. メール等の手段により、外部講演会や研修会等の FD に関連する情報提供を適宜行い、教職員への啓発に勤めました。本学は公益財団法人 大学コンソーシアム京都の加盟校として、第 23 回の FD フォーラム「FD のこれまでと、これから～多様な角度から FD について考える～」にも積極的に関与し、今年度も FD 委員が一分科会「リベラルアーツ教育の展望」をコーディネートして、全国に向けた FD 活動の普及や情報発信、関係機関との交流・連携の機会を持ちました。

本報告書では、以上の活動を様々なデータをもとに紹介し、本学の教育活動の現状と今後の課題についてまとめております。ご一読を賜り、本学の教育・研究の更なる発展と向上に役立てていただけますよう、お願いを申し上げます。昨今の学生気質の変化や教育・研究環境の変化に対応しつつ、全教職員が継続的かつ発展的に FD 活動に取り組んで行けますよう、FD 委員会では今後も様々な活動を推進して行きたいと考えています。

2018 年（平成 30 年）3 月

京都ノートルダム女子大学  
FD 委員会委員長 向山泰代